

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2290200035		
法人名	一般社団法人 ふな会		
事業所名	須崎つわぶき荘		
所在地	静岡県下田市須崎1756番1		
自己評価作成日	平成31年1月30日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2290200035-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;jigyosvCd=2290200035-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

少人数のグループホームならではのアウトホームな雰囲気、ひとりひとりの細かいニーズに対応。入所者さまの心と身体に寄り添い、安心して健やかに過ごしていただけるよう最大限に配慮。訪問医、看護師との連携により、体調管理にも万全の体制を整えている。丁寧なケアで入所者さま、ご家族にもご満足頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

話し上手な代表(理事長)を中心に、和やかな空気が流れる事業所です。木立に囲まれた山荘のような建物の周囲にはタラの木も生息し、タラの芽を摘んで食卓に彩を添えることもあります。イノシシやリス、トンビ、ムジナや雉も姿を見せ、窓枠を止まり木代わりにするトンビには職員がパンを与えているほか、波勝崎から電線を伝ってやってくる猿は知らぬ間にごみ箱をきれいにして帰って行きます。「利用者は少人数でも最高のサービスを」と職員配置を厚くし、心を込めたサービスを心がける日々の中、今年は『2周年の集い』を開催し、地域へも招待状を届けて、市長、区長、家族が50名余集い、大変賑やかな寿ぎとして昇華しました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念実践につながる期間活動テーマを決め活動。理解が深まるよう、OJT、ミーティングを行っている。入所者さまの【心と身体に寄り添う介護】を継続的に実践。	理念は目に入る場所に掲示しており、年2回おこなうミーティングでも周知しています。最近調理担当として夫妻で採用された職員は、理念を説明するまでもなく、いつも思いやりのある声掛けをしてくださいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事やボランティアが開催している会合などに参加し、地域の方々と交流を持っている。希望される方は、地域の美容室に行ったりしている。	地域のイベントではマグロの解体ショー見学とともに新鮮な切り身や猪鍋で大満足となる機会を提供してもらえ、事業所でもお礼として地域の皆さんを招いて『2周年の集い』を賑々しく開催しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントを開催の際、地域の方々をご招待し、施設の紹介とともに認知症への理解と現在取り組んでいる介護支援について情報を提供。運営推進委員会でも認知症についての理解が深まるように伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や取り組み内容を報告し、ご意見をいただいている。年間行事の案を考えた際には運営推進委員の方々に提案をして頂き、画一的な企画にならないように外部の様々な意見を取り入れている	奇数月第3水曜日と日程を定め、市役所介護保険課、区長、民生委員(2名)、家族とメンバーも整え、隔月開催が実現しています。運営報告や話し合いのほか、利用者の食事の試食をお願いしたこともあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所などに出向き、担当者とのコミュニケーションを図っている。市に対しての協力要請や市の意見を取り入れ、信頼関係を築いている	市役所の担当職員も地元住民のため、地域とのかかわりを同じ目線で助言くださることは殊の外励みとなり、生活保護者も入所していることから福祉課とともに、月2回以上は窓口に出向き連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言/尊厳を守るミーティングを実施。身体拘束にあたるものを詳しく再確認を行い、入所者さまの心身の状態を理解し、受容していく事を職員全員で実践している	理念をベースに、身体拘束排除についてはミーティングで資料を配布の上、スピーチロックやドラッグロック等具体的に学び、知識共有を進めています。協力医も本件には厳しく、利用者と事業所を後方から応援くださっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者さま一人ひとりの認知症状を理解、共有。職員相互での意識づけや介護士の客観視能力を磨く努力をすることを確認。法令の遵守を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が必要でも、未だ後見人がついていない入所者さまには、関係各所に働きかけ、大切な権利が守られるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、何度も話し合いを重ね、納得してから入所して頂くようにしている。入所されてからも、入所者さま、ご家族共にご満足頂いているか？等お伺いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が運営推進委員会にご出席された際には、必ず施設への評価を伺い、区長、民生委員、市役所職員等と共有している。個人的な要望にはその都度対応している	毎日の暮らし向きや医療面での変化など、代表者が毎月便りとともに時節の言葉を家族に届け、心と心の通うやりとりで尽力しています。また面会では1ヶ月間のベストショットも渡して、話材に花を添えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が疑問に思う事や意見など、管理者と話し合う時間を設けている。意見を反映し、より働きやすい職場を目指している	『2周年の集い』ではデザインに職員意見も反映されたTシャツが用意され、職員専用の冷蔵庫の購入やキッチン棚の投入等、必要なものだけでなく、職員意欲が沸き立つような採択が見られます。	職員協議がより豊かになるよう、職員が外部研修に参加し、その内容を所内で口伝研修する機会が増えることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を正当に評価し、日常業務でのOJTをその都度行っている。ミーティングを設け、職員の意見を聞きよりよい労働環境になるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修の参加を継続的に推進(現在6名受講済)。ミーティング、OJTを通じて施設職員のモチベーションアップ、介護スキル向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南伊豆ふれあいホスピタルの看護師研修に職員が参加。研修を受け、情報を職員同士で共有。より高い介護サービスを提供するよう話し合いを行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の要望を第一に考え、医師、管理者がご本人が安心して暮らせるよう、ケアの方向性をご家族に提案。施設的环境に早く慣れて頂けるよう介護士が気を配り、管理者に報告をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族が不安を払拭できるように誠実に対応している。柔軟に要望を取り入れることが出来るほか、どんな事でも相談して欲しい旨を伝え、ご家族と共にご本人を支える関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が困っている事をお伺いし、医師、管理者が最適な支援方法を考えている。訪問看護サービスや外部のサービス利用など、必要に応じて積極的に提案、導入している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブルを拭く、お花に水をあげる等、ご本人がやりたい事、できる事をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医の通院等はご家族が担当している。診断後のケアの方針をご家族と相談している。運営推進会議への出席をお願いし、共にご本人を支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、お友達やご近所の方にも自由に面会にお越しいただいており、ご本人との関係を継続している。立ち寄りやすい雰囲気づくりを行い、気兼ねなくお越し頂けている	「慕ってくださったので…」と、入居前に担当だった介護支援専門員が菓子持参で何度となく訪れたり、隣近所の方の面会があったりと、自由な往来があり、馴染みの関係が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者さま同士のおしゃべりや、交流をサポートしている。耳が遠い方や、言葉の出ずらい方などには、会話のトラブルのないようにフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族からご相談があれば、ご家族の立場に立ちアドバイスや支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や、傾聴により個別の要望を把握。思いが言いやすい環境づくりを行うと同時に、ご家族にも意見をお尋ねし、ケアの方向性の相違がないように注意を払っている	夜中までテレビ鑑賞していた人には、朝食時間を遅らせたり、珈琲が好き等嗜好も把握し、本人本位に支援しています。また入居時にも医師が立ち会ってくださっており、医師に本意を話す利用者が少なくありません。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前事業所の担当者などから、生活歴や生活環境などを入所前に詳しくお伺いし、必要に応じて介護士と共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や、心の状態の変化に早く気付けるように、介護記録をもとに申し送りを行っている。身体状況によっては医師、看護師に早い段階で報告、相談を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時に医師、管理者、家族、ご本人による話し合いの情報のもと、管理者、介護職員が、ご本人に合わせたケアを考案。ご家族に提案し介護計画を作成、実践している	本人、家族からの聞き取りに基づき要望を整理し、職員からの聴取で課題抽出のうえ、計画作成担当者兼介護支援専門員が介護計画書を作成しています。	ケアプランの周知において、職員の実践確認を明瞭とするツール(シートや仕組み)を備えることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、バイタル、排泄、特記事項を細かく記載し、入所者さまの健康状態を把握できるようにしている。医師の回診時に報告、相談し、医師の指示により介護を実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者さまの心身の状況に合わせて、訪問看護サービスを取り入れたり、整体師によるマッサージを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベント等を開催し、地元の方々をご招待し、交流の機会が持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医への受診を基本に、ご本人、ご家族のご希望、訪問医の診断に合わせて最善の医療を受けられる	全員が1週間に1度来訪くださる協力医に変更しています。利用者の医師への信頼は厚く、また夜間は看護師が月の3分の2程度勤務していることもあって、医療は安心の態勢にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問医に、管理者・介護士から心身の状態、生活状況を細かく報告している。医師の判断のもと、訪問看護サービスにつなげたり、かかりつけ医に受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院しているときから、施設での生活や症状などの情報を医師、看護師に伝えておき、入院した際に備えている。退院時には病院医師と家族または管理者と退院後の生活について話し合いをし、介護方針を立てている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望、本人の身体状況から終末期の過ごし方について入所時に確認している。納得のいくまで何度も話し合いを重ねて、状況により見直しを行っている	看取りが安心しておこなえる条件が諸所揃い、協力医も敷地傍で診療所を営んでいる為、何かあれば走ってきてくれます。また4月からは常勤看護師が配置される予定で、医療連携加算も申請することとなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護士→医師(看護師)への相談システムを整えており、介護士の応急処置のほか、医師(看護師)からの指示を仰ぎ、迅速で適切な対応をするようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と災害時の相互協力関係を築いており、運営推進委員会などで情報交換を行っている。毎年の避難訓練で誘導の流れを確認している	年2回の法定訓練の内1回は消防署の立ち合い指導を受け実施しており、地域の防災訓練にも参加、また区長や民生委員とは防災協定を結んでいます。本年は担架用として帆布も購入しています。	平成30年は2回共に昼想定ですので、次年度は夜間に取組むことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	【尊厳を守る】をテーマにミーティングを行い、プライバシー保護や、禁止の声掛けをしないなどの考えに基づいた活動をしている。管理者は介護士の意識づけと、現状把握を行っている	居室の入室時のノックから言っははいけない言葉まで細部にわたり、ルールがあります。「スタッフの皆様へ～尊厳について伝言(心を受けとめていますか?)」と、代表者の直筆で留意点が貼りだされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者さまの要望は、必ず聞き入れるよう介護士から管理者に報告をしている。日常会話や様子から伺って、入所者さまが不便を感じたり、我慢をしないようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりや規則に縛られることなく、自由に過ごしている。ご本人の希望や、様子から介護士が声掛けを行い、屋外テラスで軽い運動などを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた洋服を着る支援や、好きなヘアスタイルにする為に、希望に応じて美容院にお連れしている。美しい身だしなみを意識するため介護士が声掛けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者さま一人一人の食の好みなどをよく理解しており、食事が楽しみになるように努力している。片付け、準備はできる方にはお願いしている。	五感に訴える食事として、濃すぎない(味覚)見た目がキレイ(視覚)口に優しい(触覚)調理音がする(聴覚)旨味の香りがする(嗅覚)を大切にしています。またピザ釜があり、よくピザや焼き芋を焼いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、品数豊富なメニューを提供。常時手元にお茶やスポーツドリンクおき、好きな時に摂れるようにしている。血液検査の栄養状態から、個々に合わせてプラスメニューを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる方には、毎食の歯磨きを習慣にしている。歯磨きができない方には、その方に合わせて口腔ケアを行い、必要に応じて歯科医に相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ使用を見直し、排泄の自立を促す、【脱・おむつキャンペーン】を実施。無理はせず、一人一人の気持ちと意欲を確認しながら取り組み、紙パンツから布パンツ使用になった方もおり成果をあげている	他施設からの入居では、「なぜリハパンなのか、おかしい」と感ずることが多々あり、職員が「脱オムツキャンペーン」として取り組みの見直しを進め、その結果4名が布パンに向上した実績があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体機能の維持のため、適度な運動を心掛けており、食事内容にも気を遣っている。便秘になってしまった場合には、看護師指導のもと下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴時間は決まっているものの、希望や必要に応じて入浴ができるようにしており、気分転換や楽しみの一つとなっている	通常は週2回ですが希望には応える方針で、現状も3回の利用者がいます。一人ひとり湯も入れ替え、温泉好きの人のために入浴剤を購入したり、蜜柑の皮を煮詰めて湯に浮かべ温浴効果を高めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な起床時間・消灯時間はあるが、一人一人の状況に合わせて十分に休息ができるようにしている。精神的な安心のため介護士が寄り添うこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服用薬の情報をまとめて、確認できるようにし、副作用が疑われる場合には、速やかに医師に相談している。看護師が薬の管理を行い、氏名、日付、食後などの情報を確認の上、服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者さまの誕生日やクリスマスなどの季節行事を行い、お祝いをしている。施設内屋外テラスでのお茶会を日常的に行い、入所者さま同士おしゃべりをしたり、歌を歌ったりして交流を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	爪木崎水仙まつり等、地域で開催しているイベントに参加し、金目鯛のお寿司やマグロの解体ショーなどを楽しんだ。美容室に行き、地域の方々とふれあい、美しくなる喜びを実感。前向きな気分になっている	地域のお祭りやチェーンレストランでの外食を実施していますが、「季節を感じる」「リフレッシュする」といった取り組みについては、デッキでの外気浴と個別のミニドライブで補完されている状況です。	防災訓練、運営推進会議、時節行事、外部評価等必須のこととともに、本件(外出行事)を含み年間計画表を作成されると、なお良いと思います。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身体的に外出ができない方が多いため、通院の際に病院の売店などで好きなものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に合わせて対応している。年賀状や暑中見舞いなどは、ご本人に出状の希望の有無を確認している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、クリスマス等の行事の装飾をし、季節感を演出。掃除の担当者を配置し、快適に過ごせるように配慮している。部屋の温度管理を行い、身体に負担がないように気を配っている	「寛げる」「安らげる」をテーマにシックなイメージで代表者がインテリアを選んでおり、ウェルカム感が高いことが目を惹きます。また山の中の一軒家的で在りながらも、不思議と寂しさを感じないのは、職員の温かな包容力の賜物と受け止めました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースで過ごされる方が多く、介護士との日常会話や入所者さま同士でコミュニケーションをしている。リビングで書き物をしたり、テレビを見たり自由に過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や、自分の作品などを飾ったり、愛着のあるものを自宅から持参し、引き続き使用している。部屋のレイアウトや物の収納など、ご本人の使用しやすように相談して決めている	「馴染みのものを持ち込んでください」ではなく、「手ぶらでも構いません」と伝えていて、代表者が「どんな部屋にしたいのか」を聞き取り、希望に応じて準備しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものに接触しないよう、常時安全に配慮している。バリアフリー、開閉しやすい扉、手すりなど、介護施設に求められる設備は整えている		